



認定こども園にじいろ・かっこう幼稚園 研究重点
心を動かし、思いをもって遊び込む幼児を育むための保育者の援助と環境構成

今回の研究だよりでは、4歳児と1歳児の実践事例を紹介します。

実践事例 4歳児(きりん組) ~自信を持って取り組んでほしい(運動遊び)~

【遊びが始まるきっかけ】

運動会が近づいたある日の夕方。保育者が跳び箱の絵を描いていると「これなに？」と興味をもつ保育園児。「もうすぐ運動会あるよね。」など会話を楽しんでいると「鉄棒やりたい！」と昨年たくさん取り組み、できるようになった鉄棒を思い出した様子。その後、会話が弾み、いろいろな運動遊びが描かれた絵が完成しました。

次の日の朝、幼稚園児も登園してくると貼ってあるその絵を見つけました。保育者や保育園児から運動会があることを教えてもらい、きりん組みんなの共通のやってみたいことになっていきました。



保育者の思い

興味の幅は広いですが、「できない」とあきらめる姿も多いクラス。特に、運動遊びは「やったことがないから、できなさそう」と苦手意識をもちやすい印象があります。運動会をきっかけとして、様々な運動遊びに挑戦し、好き、得意、できるを増やして欲しいなと思い、子どもたちと会話をしていました。絵に描いておくことで、視覚で分かりやすく、共通意識をクラスでもつことができたのではないかと思います。

お互いを認め合うよさ

またやってみたいが生まれる環境

取り組み表(うんどうかいがんばるかーど)を用いることで、様々な種目をやってみようとする姿がみられました。誰かができると「すごいね！」と子ども同士で認め合い、嬉しい気持ちや誇らしい気持ちを感じられたと思います。「またやってみたいな」と思う環境の中で伸び伸びできたことが、運動会の活動にも生かされました。

遊んでいるときに子ども同士でこんな会話をしていました♡



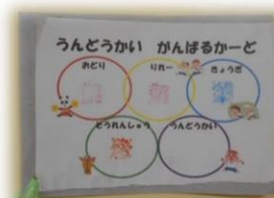
ぱんだ(年少)のときは縄跳びでできなかったけどきりん(年中)になったからできるようになった！

そうだよね！きりんさんだからできるよね！

以前の自分と比較してできることが増えていると実感し、自信をもっていることが伺えます。



選択できることで「全部はできなくても、どこかならできるかも」とやってみようとする気持ちが生まれたように思います。



何に挑戦しようか？など見通しをもちやすく、「やりたい」と子どもたちからの発信が増えました。



話し合いから

・年少から年中になってできることが増えた子どもの気付き

→自分自身でできるようになったことに気付き、自信をもって取り組むことにつながった。

・取り組み表＝目で見てわかる達成感

→「全部はできなくても、どれかならできるかも」「取り組み表に○を増やしたい」などそれぞれの思いは違ってもクラスとしての着地点は同じになり、共通の目標をもつことができた。

・粘り強く取り組む力

→今回は様々な運動遊びに取り組む事例であったが、“ちょっとできた”で終わらせず、目標を決めて継続的に取り組めることも大切。上達することで、さらに大きな達成感と自信をもつことができるのではないかな。

運動会をきっかけにいろいろな運動遊びを楽しんでいます。運動会をゴールとせず、「やってみよう」「おもしろい」「もっと上手になりたい」など子どもたちの興味を大切にしたい保育を今後も行っていきます。話し合いをもとに最近では次のような取り組みもしています。

いろはにこんぺいとう

縄の上・真ん中・下をくぐり抜ける遊びです。縄に触れないように体の使い方を考えながら取り組んでいます。



【スモールステップで取り組む】

ヘビ跳び、大波小波、縄くぐりなど子どもたちの発達段階に合わせ、スモールステップで取り組んでいます。また、縄回しなど縄跳びと類似した運動遊びも取り入れ、様々な運動感覚を体験し、体を動かすことが楽しいと感じて欲しいと考えています。

【年長児への憧れ】

運動会が終わった後も自由遊びで大縄跳びなどの運動遊びに挑戦しています。らいおん組（年長児）がたくさん跳べることに気付き、「すごい」と憧れも感じているようです。

縄となかよしになろう！

縄を使って一本橋のコースを作り、落ちないように渡っています。縄跳びに苦手意識のある子も楽しく遊んでいます。



実践事例 1歳児(うさぎ組) なんだこれ～！がいっぱいの感触遊び

ツルツルで冷たい！
なかなか掴めない
なあ…



ブルブル
してる～♪



ネチョットするけど、それが楽しい！

好奇心旺盛なうさぎ組の子どもたち。暑い日が続いていたこともあり、大好きな水遊びを思う存分楽しむことができました。そんな水遊びの延長で、感触遊びを取り入れ、氷、寒天、指絵の具など、様々な素材の感触を味わっています。初めて見る素材に、“なにこれ…”と一歩引いて見ていた子ども、保育者や友達が楽しそうに遊んでいるのを見ると、“ちょっと触ってみようかな？”と近付いてきます。触ってみると、“怖くなかった！”“もっとやりたい！”の気持ちも生まれました。安心できる保育者と友達の中で、様々な“やってみよう”を引き出し、幼児期へと繋がる成功体験を重ねていきたいと考えています。